

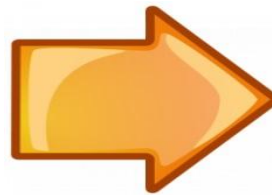
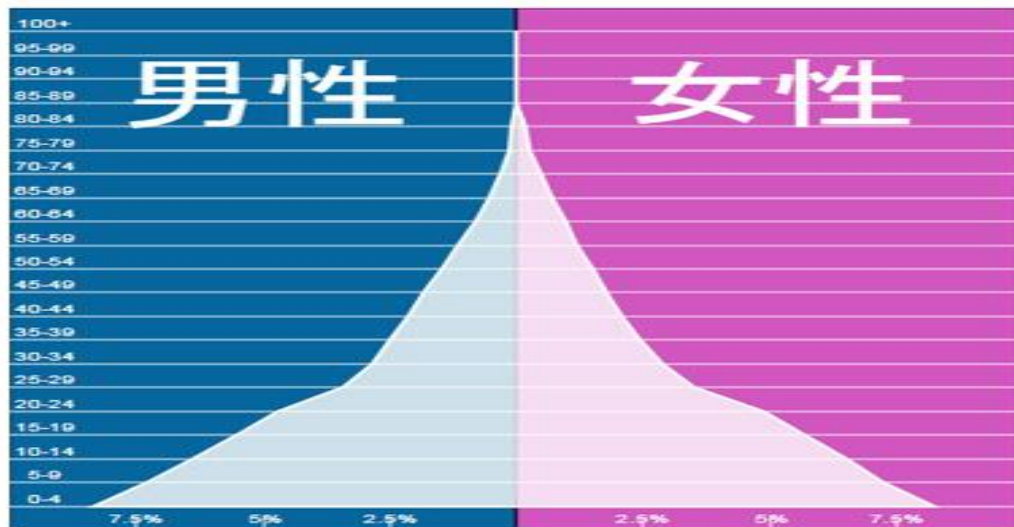
カンボジアの教育

カンボジアの歴史

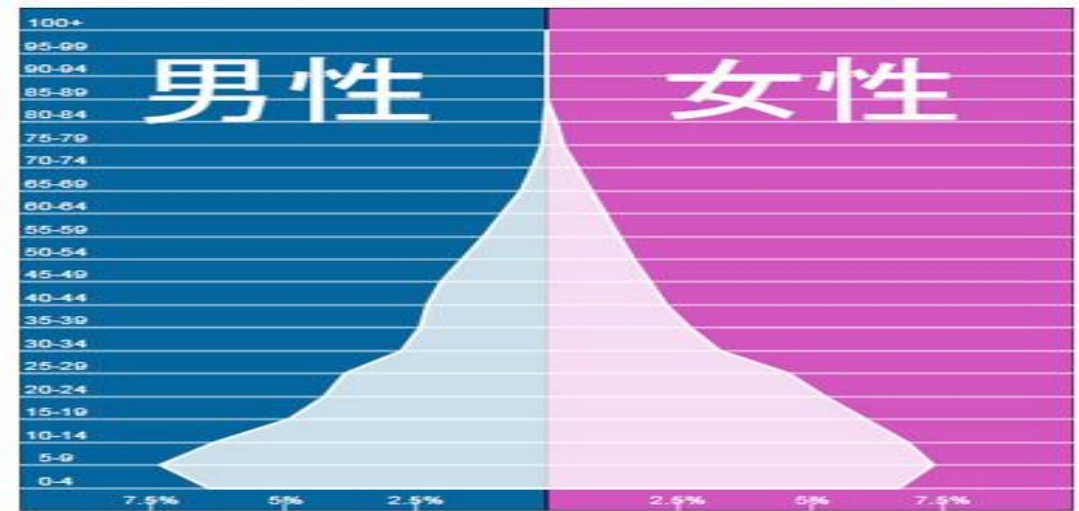


- ✓ ポルポト政権による知識層の迫害
- ✓ 『教育制度』の廃止
- ✓ ポルポト政権後の人口ピラミッド

カンボジア
1975 人口: 7.555.000



カンボジア
1980 人口: 6.699.000



現在の教育の問題



✓考えることを軸とした教育が浸透していない。

WHY?→

A.ポルポト政権後、知識人が欠如する。先生と呼ばれる者は、教科書に書いてあることをそのまま生徒に伝えることしかできない。このような『考える教育』を施されなかった子供が大人になり、またその次の世代に同じような教育を行う。こうした負の連鎖が原因となり、教育の中に考えることが浸透しない。

教育現場の改革

✓ CIESFによる『考える教育』の導入。



Cambodia
International
Education
Support
Foundation

シーセフ

✓ 主な政策

1. 教育政策大学院大学創設
2. ビジネスプランコンテスト
3. 職業訓練校

まとめ

- ✓現在のカンボジアでは『考える教育』が浸透していない。
- ✓公益財団法人**CIESF**によって『考える教育』が導入されつつある。
- ✓『考える教育』が本当に浸透するかどうかは、今現在は不透明な部分もある。

参照

- Webサイト: 池上彰解説塾 (<http://www.geino-topic.net/>)
- Webサイト: 公益財団法人**CIESF** (<http://www.ciesf.org/>)

戦争証跡博物館

ベトナム戦争に関する貴重な資料が多く展示されている。

- ベトナム戦争で実際に使われた戦車や戦闘機
- ベトナム戦争の戦闘の激しさを伝える写真
- 枯葉剤による後遺症に苦しむ人々や障害を持って生まれてきた方々の写真
- 日本を含む世界各国のベトナム反戦運動に関する資料



平和村

- ベトナム戦争中にアメリカ軍によって使用された枯葉剤の影響で障害を持って生まれてきた子どもたちが生活している。
- ツーズー病院の院長とドクさんから貴重なお話を聴くことができた。
- 実際に病院内で生活している子どもたちとふれ合うことができた。

クチトンネル

- 南ベトナム解放民族戦線によって作られた全長200kmの巨大な地下トンネルで戦争中はトンネル内で人が生活していた。
- ゲリラ戦に使われた落とし穴の展示
- 実弾を使った射撃や実際にトンネル内に入る体験が出来た。



アキラ地雷博物館

- 地雷除去活動家のアキラーさんによって作られた地雷博物館
- カンボジアでは現在も地雷や不発弾による事故が絶えない。
- 様々な種類の地雷や不発弾の展示されており、実際に間近で見ることができた。
- 夜には実際に地雷除去に携わるパニャサ大学の松岡先生からお話を聴いた。



トゥール・スレン強制収容所

- ポル・ポト政権下の1976年に強制収容所とされ、多くの市民が拷問・虐殺された。
- 建物内には当時使われていた収容室や拷問室などが保存されていた。
- 1000人を超える収容者の人々の写真が展示されていた。
- この収容所から生還した人はわずか7人しかおらず、今回そのうちの2人にお会いすることができた。

キリングフィールド

- ポル・ポト政権下に強制収容所に収容されていた人々が虐殺された場所
- キリングフィールド内には虐殺された方々の服装や遺骨などが現在でも多く残っている。
- 慰霊塔には発見され掘り起こされた約9000体の生々しい遺骨が安置されていた。



ゴミ山（生活）

ゴミ山の現状(生活)

毎日13～15台の収集車 ※一台当たり約1000リエル

目的: ペットボトル・空き缶・銅線・アルミ・生ごみ(豚のえさ)



ベトナムのリサイクル会社に売る

月収: 50□～70□ ※農業の収入: 25□～30□

問題点（生活）

- 農業収入よりゴミ収集の収入のほうが良い
- 環境不整備が引き起こす事故・病気
- 学校が二部制
→子供たちは学校に通いながらもゴミ拾いができるしまう状況
- カンボジア国内に整備されたゴミ処理場・リサイクル会社がない

ゴミ山（教育）

ゴミ山に住む子どもたち

- ・「将来どんな職業に就きたいですか」というアンケート
⇒約90%…「知らない」「分からない」
⇒約10%…「ゴミ山で働く、農業、先生、医者」
- ・学校に行っている子もいるが、行っていない子もいる。
- ・ゴミ山に通っている成人未満と成人の比率は約6:4

ゴミ山に住む子どもたちへの支援例

①NGO団体Kumae

シェムリアップのゴミ山

子どもたちに対する日本語学校の提供

フリースクール、毎日60人前後

1時間ごとの授業でレベルごとに分けられて いる

年齢層は幅広い

②JLMM 日本カトリック信徒宣教者会

○プテア・コマ(子どもの家)

- ・月～金 8:45～11:00 年齢、能力別に2クラス
- ・ステンミエンチャイ地区に住む貧困や家庭の事情で小学校に入
学していない子ども、小学校退学や落第、授業についていけない子ど
もなどを対象
- ・基礎的社会能力や知的能力を伸ばす
- ・授業終わりにお昼ごはんを提供

その他の支援

- 1) 家庭訪問
- 2) 医療サービス・家庭訪問
- 3) 母親ミーティング
- 4) お母さんセミナー
- 5) 現金創出プログラム

ゴミ山（環境）

ゴミ山と環境

- 環境現状

1. 微生物が生ゴミを分解するときに発生する**メタンガス**、**アクリル系の繊維**や**樹脂**、**ポリウレタン**などが燃えた時に発生する**青酸ガス**(死にいたる可能性もある)、**ダイオキシン**(発ガン性、催奇形性=妊娠中に胎児が奇形になる)などが発生している。

2. **医療廃棄物**(注射針など)、**水銀入りの乾電池**、割れて先の尖ったビンなどもある。

3. 現在、都市部で発生する廃棄物の集積作業は、民間企業がほぼ独占的に行っているが、国内の多くの地域が未だに十分な収集サービスを受けていない



援助状況

- 日本政府・国際機関:

- 1. JICAプロジェクト

- a.カンボジア国プノンペン市廃棄物管理計画調査(2003年～2005年)

- b.プノンペン市都市環境改善プロジェクト(2006年～2008年)

- c.無償資金協力「プノンペン市廃棄物管理改善計画(仮称)」にて妥当性、緊急性の観点から検討される予定

- 2. 一部のゴミ収集機材につき、大阪市環境局が中古車輛の供与意向を示しており、プノンペン市が草の根リサイクル無償を申請中(内定済み)

- 他ドナーなどの援助:

- 1. 世銀が廃棄物管理にかかる現況調査を実施(1996年6月)

- 2. Municipal Service Erfurt Stadtwirtschaft Ltd.のドイツ技術者が新規処分場の用地選定及び概略設計実施(1997年)

- 3. ADBとNORADとの協調により廃棄物管理計画調査を実施(1997年9月～2002年3月)

- 4. ADB(Japan Fund Poverty Reduction)により、公衆衛生の啓発キャンペーン、コミュニティーによる廃棄物管理等を実施(2003年1月～2005年12月)

- 日本NGO・民間団体:

- 1. 愛センター:現段階で、地域の清掃活動をしている。これからゴミ山近辺の集落の子供に健康診断や環境関係の勉強会を開催する予定

- 2. JLMM日本カトリック信徒宣教者会:ステンミエンチャイ地区のゴミ山の近辺に住む住民を対象に医療サービス・家庭訪問を実施している。

- 3. スタディツアー・海外インターンによるゴミ山視察